

# 記念講演会&スペシャル・トークショー

10月30日(日) 高知県立美術館ホール 入場無料 (先着 399 席)

「写真家・石元泰博の眼一柱、伊勢」開催を記念して、石元泰博氏と親交の深い方々をお招きして、石元氏が撮影した「桂離宮」と「伊勢神宮」をはじめとする数々の作品の魅力やその意義について、前半は講演会・後半はトークショーでお話しいただきます。お問い合わせのうえ、ぜひご来場くださいませ。

## 記念講演会 11:00~12:00 (開場は15分前)



©香港日瀚国際文化有限公司

### 「伊勢神宮」はなぜモノクロで撮影されたのか —石元泰博の建築写真—

講師：磯崎 新氏 (建築家)

1931年、大分に生まれる。ポストモダンの代表的な建築家。建築設計活動のみならず活発な評論活動、芸術文化活動においても広く知られ、世界の建築、芸術・文化の領域においても極めて知名度の高い日本人建築家のひとりとして、国内外を通じて幅広く活躍している。代表的な建築は、群馬県立近代美術館、つくばセンタービル、ロサンゼルス現代美術館、水戸芸術館、奈義町現代美術館・奈義町立図書館、山口情報センター他多数。日本建築学会賞(1967、75年)、RIBAゴールドメダル(1986年)、ヴェネチア・ビエンナーレ金獅子賞(1996年)等を受賞。石元泰博氏の写真集『桂離宮 空間と形』、『伊勢神宮』に論考を寄せている。

## スペシャル・トークショー 13:30~15:00 (開場は15分前)

出演：石元泰博氏(写真家)、矢野憲一氏(五十鈴塾塾長、元神宮徴古館農業館館長)

内藤 廣氏(建築家、東京大学名誉教授)

司会：森山明子氏(武蔵野美術大学教授、デザイナー・ナリスト)

### 石元泰博 (いしもと やすひろ)



1921年サンフランシスコ生まれ。1924年に両親とともに高知へ戻る。1939年に高知県立農業高校を卒業後、単身渡米。1948~53年、シカゴの通称ニュー・パウハウスでデザインや写真技法を学ぶ。1953年来日し、桂離宮に大きな感銘を受け撮影を始める。これが本格的に写真を始める契機となった。1969年に日本国籍取得。主な写真集として『ある日ある所』(1958年)、『シカゴ、シカゴ』(1969年)、『桂』(1970年)、『伝真言院両界曼陀羅』(1977年)、『伊勢神宮』(1995年)などがある。1993年に勲四等旭日小綬章受賞。1996年に平成8年度文化功労者に選ばれている。2005年6月、紺綬褒章を受章。同年11月、高知県文化賞を受賞。

### 矢野憲一 (やの けんいち)



1938年伊勢市生まれ。國學院大学文学部日本史学科卒業。1962年伊勢神宮に奉職以来、神宮禰宮、神宮司庁文化部長、広報課長、神宮徴古館農業館館長を歴任。2002年退職後、NPO法人五十鈴塾塾長に就任。専門は神道文化史・民俗学。著書に、「ものと人間の文化史」シリーズ『鮫』『鮑』『枕』『杖』『亀』、『伊勢神宮の衣食住』、『魚の文化史』、『伊勢神宮-日本人のこころのふるさとを訪ねて』、『大小暦を読み解く』、『伊勢神宮 知られざる杜のうち』など多数出版している。

### 内藤 廣 (ないとう ひろし)



1950年横浜生まれ。1976年早稲田大学大学院修士課程修了。フェルナンド・イゲラス建築設計事務所(スペイン・マドリッド)、菊竹清訓建築設計事務所を経て、1981年内藤廣建築設計事務所を設立。2001年から東京大学大学院教授、副学長を歴任(2011年3月退任)。主な建築作品に、海の博物館(1992)、安曇野ちひろ美術館(1997)、牧野富太郎記念館(1999)、島根県芸術文化センター(2005)、日向市駅(2008)、JR高知駅(2009)、虎屋京都店(2009)など。近著には、『NA 建築家シリーズ 03 内藤廣』、『内藤廣と若者たち 人生をめぐる一八の対話』などがある。また、石元泰博による撮影の『海の博物館』、『安曇野ちひろ美術館』、『牧野富太郎記念』、『倫理研究所 富士高原研修所』の4冊の写真集を出版している。

### 森山明子 (もりやま あきこ)



1953年新潟生まれ。1975年東京芸術大学美術学部芸術学科卒業。特許庁入庁。意匠課審査官、財団法人国際デザイン交流協会勤務等を経て、1986年日経マゴウビル社(現・日経BP社)入社。『日経デザイン』の創刊にかかわり、編集長として昭和デザインの三部作『昭和のデザイン(パイオニア編)デザイン「遣唐使」のころ』、『昭和のデザイン(エポック編)デントウ虫が舞い降りた』、『昭和のデザイン(プロダクト編)メイド・イン・ジャパンの時代』を発売。1998年から武蔵野美術大学教授(デザイン情報学科)。NHK ハート展選考委員、グッドデザイン賞審査副委員長、芸術工学会副会長、三宅一生デザイン文化財団理事などをつとめる。2010年石元泰博の初の評伝『石元泰博—写真という思考』を出版する。